

「お見舞いありがとう」

豪雨被害の 新潟県選手 感謝の横断幕掲示

豪雨の猛威を知る島根、新潟両県民が、高校スポーツの祭典でエールを交わした。二日に大田市総合体育館であった中国04総体（インターハイ）の登山競技開会式



見舞金のお礼をつづった横断幕の前で、勝部一仁副委員長らと握手する新潟県の選手たち＝大田市大田町、市総合体育館

った。

被害に遭ったのは新潟県三条市にある新潟県中央工業、三条の両校。登山競技の選手八人は自宅こそ難を逃れたが、川の決壊で床上浸水に見舞われた校舎から泥を運び出す作業に追われ、練習は中止に追い込まれた。

テレビに映し出される豪雨のつめ跡。「何かしたい」と手を差し伸べたいのが、一九八三年に島根県西部を襲った「58水害」の記憶が脳裏に刻まれている島根県高体連の登山専門部だった。

二十一年前のインターハイでは、水害で登山競技に必要な装備を水に流された島根県代表の益田高が周囲の高校から備品

を調達。仲間の協力で苦難を乗り越えて出場を果たした。

登山専門部は七月二十二日、山を愛する競技仲間の出場と復興の願いを込め、新潟県の両校へ見舞金を二万円ずつ郵送。新潟県央工では早速、自宅が被災した一年生部員に手渡した。

開会式の直前、新潟県選手団が「お見舞いありがとうございます」と書いた幅四尺の横断幕を掲示。県央工の斉藤圭太選手（18）は「支援をもらって奮起した。最後まで歩き抜こう」と対面した島根県選手に語り掛けた。

謝意を告げられた専門部の勝部一仁副委員長は「出場辞退にならなくて良かった。故郷と家族を励ますため、力を発揮してほしい」と固く握手し、上位進出を目指すよう激励した。